

コロナ感染に不安を感じられている会員の皆様に

2020(令和2)年5月20日

認知症の人と家族の会 副代表 杉山孝博

連日の新型コロナウイルス関連報道、とりわけ福祉施設や医療機関における感染発生などを見聞きしますと、介護の必要な方やご家族が強い不安に襲われるのは当然だと思います。新型コロナに限らず、様々な感染症に対する恐怖は、人類の本能的なものといってもよいでしょう。この場合、大切なことは次の4点にまとめられます。

「正しい知識を持つこと」「予防法など自分でできることを実行した上で、それ以上心配しないこと」「医療や福祉を信頼すること」「ひとりで悩まないで、専門職種の人や家族の会の仲間などと話し合うこと」です。

それぞれの項目について考えていきましょう。

1. 正しい知識を持つこと

(1)これまで、B型肝炎、MRSA、エイズ、新型インフルエンザなどの感染症がある時期には社会的なパニックを引き起こしましたが、知識が深まり医療的対応ができるようになると冷静に受け止められるようになってきたことは明らかです。

(2)新型コロナウイルスの侵入阻止、感染者の発見と隔離と治療、感染拡大の予防措置などは、公衆衛生対策という視点では非常に重要で、世界各国が経済的にも大きな犠牲を払って政策的に進められています。マスコミはこの観点から集中的に報道しているのです。

(3)感染症という視点からみると、感染力・重症度・死亡率などは、毎年流行するインフルエンザに近いと思われます。実際、コロナ感染者で重症・死亡もありますが、軽症で治癒している人も少なくありません。もちろん、合併症のある人・高齢者の方には怖い感染症ですが。しかし、米国では今年インフルエンザの死亡者は1万人といわれていますが、コロナ感染ほどに報道されていないし、怖がられてもいません。

(4)高齢である認知症の人や介護者は、感染・重症化のリスクが高いのでご心配はよくわかりますが、感染のリスクの低いコロナ感染よりも、誤嚥性肺炎やインフルエンザ感染、心筋梗塞などの疾患の方が、現実的な健康リスクといえるのではないのでしょうか。

2. 予防法など自分でできることを実行した上で、それ以上心配しないこと

マスク・うがい・手洗いなどの予防法を実行し、感染の機会の多い人ごみに出かけないことなどを心がけた上で、それ以上心配しないことが平穏な毎日続けるコツであると思います。

3. 医療や福祉を信頼すること～感染者を見捨てることは決してしません

たとえ、感染しても医療を受けられる体制が整備されています。現在も今後も医療体制性が破綻することはないと思います。福祉サービスについても同じことが言えると思います。

4. ひとりで悩まないで、専門職種の人や家族の会の仲間などと話し合うこと

不安があれば、主治医・看護師・ソーシャルワーカー・ケアマネジャー・サービス担当者など日常的に関わってもらっている専門職の人に質問したり、家族の会の仲間と話し合みましょう。介護の問題と同じように、一人で悩んでいるより気持ちが楽になると思います。